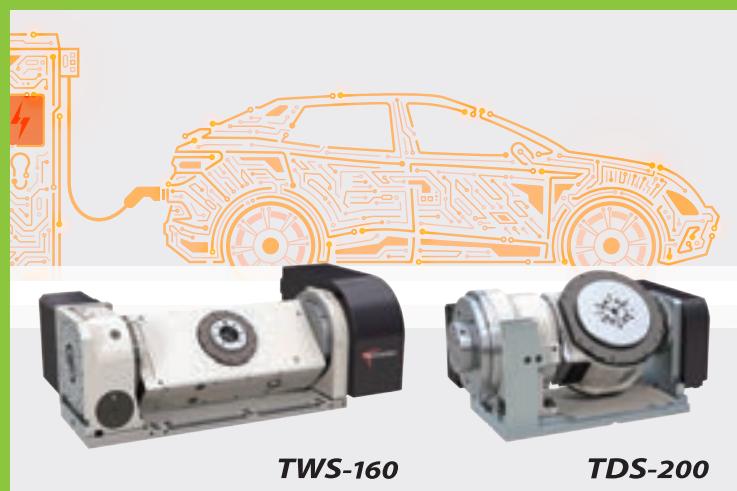


# BUSINESS REPORT



株主の皆さまへ  
第114期 第2四半期報告書  
2023年12月1日から2024年5月31日まで

津田駒工業株式会社

～最高の品質を  
目指し社会に貢献する～

代表取締役会長兼社長

高納 伸宏



2024-2026 スローガン



連結業績ハイライト

受注高 <b>15,718</b> 百万円 (前年同期22,532百万円)	経常損失 (△) <b>△37</b> 百万円 (前年同期△1,274百万円)
売上高 <b>19,233</b> 百万円 (前年同期18,861百万円)	親会社株主に帰属する四半期純利益 <b>171</b> 百万円 (前年同期△1,316百万円)
営業損失 (△) <b>△84</b> 百万円 (前年同期△1,250百万円)	1株当たり四半期純利益 <b>26.82</b> 円 (前年同期△206.13円)

(注) △印は、損失を示しています。

第114期中間報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

当第2四半期におけるわが国経済は、円安や価格転嫁による企業業績の収益性が改善する一方、足元では物価高による消費の下押しの影響もあって、景気回復は足踏み状態となっております。

当企業グループでは、2024年度から2026年度をターゲットにした「中期経営計画2026」を策定しました。これを津田駒再生計画と位置づけ、「TSK26」と銘打ち、安定した利益の確保を目標とした活動を展開しています。

繊維機械事業では、主要市場のインドと中国において設備投資の停滞が続いておりますものの、高生産性と省エネルギーをアピールしたエアジェットルームの販促を展開し、中国では環境に配慮した再生衣料向け用にまとまった受注を獲得しました。ウォータージェットルームは中国国内ブランドが好調な高級スポーツカジュアル衣料向けに、継続して受注を伸ばすことができました。また産業資材市場の開拓に注力し、エアバッグとタイヤコード分野で受注を積み上げました。

工作機械関連事業では、取り巻く環境に復調の兆しがみられてきました。そうした中で、今後が期待されているインド向けの受注が堅調な伸びを見せ、一方トルコでは大型案件の受注に成功しております。またグループ全体で原価低減活動を進め、価格転嫁も進めました。

この結果、当第2四半期においては、損益面では前年同期と比較し大幅な改善となり、一部船積みの遅延で営業赤字には至りませんでした。昨年下半年に続き今上半期でも純利益を確保することができました。

今後は、中期経営計画「TSK26」で掲げる重点施策を着実に実行し受注を積み上げます。

繊維機械事業では、①インド・中国を中心とした一般衣料向けエアジェットルーム②内需が好調な中国に加え、南西アジアに生産地が広がりつつある高級スポーツブランド向けウォータージェットルーム③今後大きな成長が期待されるエアバッグなどの産業資材向けと三つの目標を立て、販売活動を強化していきます。工作機械関連事業では、米国・中国・欧州・日本といった既存市場に新型NC円テーブルを投入するとともに、成長するインド・東欧・ASEANを中心とした新規市場の積極的な開拓、小型加工機、ギヤ面取り機等、NC円テーブルを活用した新製品の拡販に注力していきます。航空宇宙産業向けに新たな開発を継続するコンビジット機械も含め、収益の改善を図り、安定した利益体質の構築と確実な業績の回復を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、何卒格別のご理解と、今後とも引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長 高納伸宏

## ～繊維機械事業～

## 炭素繊維製織用織機CR3300の引合いが好調

現在当社は産業資材分野への販売に力を入れておりますが、CR3300カーボンレピア織機は炭素繊維関連業界へ唯一無二の性能としてご好評いただいております。津田駒が長年培ったレピア織機の技術を集約し、またコンポジット事業での炭素繊維に対する情報や知識を取り込み、高品質な炭素繊維製織を実現しています。生産された織物は、航空宇宙産業用途や、テニスのラケット、電動自転車などのスポーツレジャー用途、巨大な洋上風力発電翼用など幅広い分野で使われております。

CR3300の特長は、スレー走行型片側レピアによるヨコ入れ機構と専用開発したレピアヘッドの組み合わせによって実現される高品質な製織です。一般のレピア織機ではテープヤーンである炭素繊維糸の幅縮み、毛羽立ちが問題になりやすく、当社機はこれらの問題を大きく抑制できる性能を有し、市場から評価頂いております。

CR3300は2000年代初頭の開発以降、さまざまな技術研究、改良を重ね、現在の仕様へと進化してきました。市場の炭素繊維織物への要求やお客様の声を反映し、より高機能で高品質な織物を織りあげる織機として現在も進化を続けています。

直近では中国で炭素繊維の生産が堅調に増えており、戦略的に中国市場への販促を強化し、引合いが増えてきております。また高品質、高付加価値の製品を求める欧州でも、需要が高まっております。今後も航空機産業や重工産業、スポーツ産業まで幅広く継続的な需要が見込まれます。

幅広い業界のさまざまな需要に対し最高の品質で応えることができるよう、これからもたゆまぬ努力を続け進化させるとともに、持続可能な繊維産業の発展に貢献してまいります。



CR3300カーボンレピア織機



上海展示会での当社ブース内CR3300コーナー

## ～工作機械関連事業～

### 旋削対応傾斜NC円テーブルTDBシリーズ

傾斜NC円テーブルの需要はここ数年増加傾向にあります。その大きな理由は、加工物の複数面を加工する際の段取り替えの回数及び時間が削減できるからです。それが加工のリードタイムとコスト削減につながり、生産性の向上に大きく寄与できます。

また、今後BEV (Battery Electric Vehicle) 用の部品加工が量産工程に入ることが予想されます。その際、部品素材の多様化やユニット化によるケース加工の増加なども想定され、この需要に応えることができる製品が必要となります。

このような市場ニーズの変化を想定し開発したのが『TDS/TDBシリーズ』です。特徴は、小型マシニングセンターへの搭載、また高速回転を可能とした傾斜NC円テーブルであり、回転軸には当社独自開発のダイレクトドライブモータを搭載し、最高回転数は $3,000\text{min}^{-1}$ を可能にしました。

これにより、旋削・切削加工が1回の加工物固定で可能となります。また既存機への搭載もでき、今お持ちの工作機械の付加価値を一層高めることを可能にする製品です。

今秋開催のJIMTOF展では、加工前後の各工程の自動化アプリケーションと共に展示を予定します。豊富な製品ラインアップから最適な機種をお選びいただけます。



高速回転が可能な傾斜NC円テーブル「TDB-200」

## 事業別の状況

### 繊維機械事業

受注高	<b>12,741</b>	百万円 (前年同期19,648百万円)
売上高	<b>16,381</b>	百万円 (前年同期15,881百万円)
営業利益	<b>178</b>	百万円 (前年同期△1,091百万円)

### 工作機械関連事業

受注高	<b>2,977</b>	百万円 (前年同期2,884百万円)
売上高	<b>2,852</b>	百万円 (前年同期2,980百万円)
営業利益	<b>302</b>	百万円 (前年同期412百万円)

## 連結財務データ

BUSINESS REPORT

### 四半期連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	前期 令和5年11月30日現在	当第2四半期 令和6年5月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	19,793	19,861
固定資産	11,541	11,120
有形固定資産	7,779	7,570
無形固定資産	302	216
投資その他の資産	3,459	3,333
<b>資産合計</b>	<b>31,334</b>	<b>30,981</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	21,187	21,333
固定負債	8,031	7,512
<b>負債合計</b>	<b>29,218</b>	<b>28,845</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	793	964
その他の包括利益累計額	1,194	1,042
非支配株主持分	127	129
<b>純資産合計</b>	<b>2,115</b>	<b>2,136</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>31,334</b>	<b>30,981</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 四半期連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	前第2四半期 (累計) 令和4年12月1日から 令和5年5月31日まで	当第2四半期 (累計) 令和5年12月1日から 令和6年5月31日まで
売上高	18,861	<b>19,233</b>
営業損失 (△)	△1,250	<b>△84</b>
経常損失 (△)	△1,274	<b>△37</b>
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)	△1,241	<b>255</b>
四半期純利益又は 四半期純損失 (△)	△1,309	<b>172</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△1,316	<b>171</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 会社概要

本社所在地 〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号  
 設立 昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）

資本金 123億1,654万円  
 従業員 748名

### 役員状況（令和6年7月21日現在）

代表取締役会長兼社長	高 納 伸 宏	TSUDAKOMA Europe s.r.l. 代表取締役、法務・コンプライアンス室担当
取締役	北 野 浩 司	管理部門統括、輸出管理室長、ふぁみーゆツダコマ株式会社 代表取締役
取締役	寺 田 武 志	繊維機械事業統括、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長
取締役	大 河 哲 史	工作機械関連事業統括、ツダコマテクノサポート株式会社 代表取締役
取締役（社外）	大 松 原 和 弘	
取締役（社外）	河 村 谷 肇	
常勤監査役	長 谷 博 達	
常勤監査役	若 森 達 雄	
監査役（社外）	澁 谷 進 隆	（カジナイロン株式会社 代表取締役社長）
監査役（社外）	梶 政 隆	
執行役員	浅 井 俊 和	製造第1部担当、品質保証部長
執行役員	室 井 哲 也	調達部担当、生産技術部長、航空機部品推進室長
執行役員	西 村 登 勲	準備機械技術部担当、コンボジット機械部長
執行役員	北 川 登 志	知財・情報管理部長
執行役員	松 岡 実 行	総務部長
執行役員	石 原 英 興	鍛造部長
執行役員	佐 藤 文 文	繊維機械販売部担当、経営企画室担当
顧問	問 菱 松 沼 任 捷 宏 一 幸 仁 充 治	ツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社 代表取締役
顧問	問 坂 井 井 森 一 進 治	株式会社 T-Tech Japan 代表取締役
顧問	問 大 越 馬 進 治	共和電機工業株式会社 代表取締役

## 株式の概況（令和6年5月31日現在）

### 株式の状況

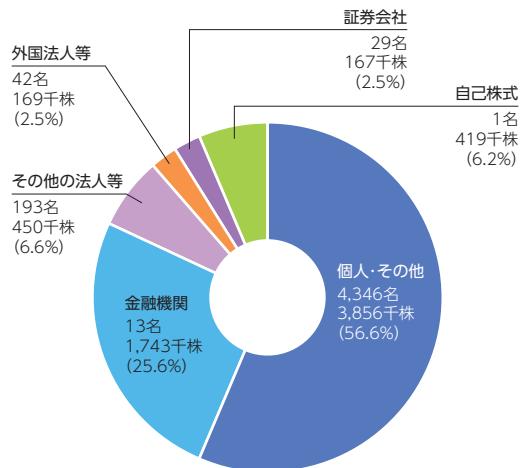
①発行可能株式総数	19,900,300株
②発行済株式の総数	6,807,555株
	（内自己株式の数）
③単元株式数	100株
④株主数	4,624名

### 大株主の状況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	1,258
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	600
明治安田生命保険相互会社	280
株式会社北陸銀行	258
ツダコマ従業員持株会	205
東京海上日動火災保険株式会社	177
三井住友海上火災保険株式会社	142
株式会社北國銀行	128
UBS AG SINGAPORE	121
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	97

（注）当社の保有する自己株式419千株は上記表には含んでおりません。

### 株式の分布状況



DREAM NAVIGATOR  
SINCE 1909  
TSUDA KOMA

### 株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（スタンダード）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間 9:00～17:00（土日休日を除く）

ホームページのご案内

<https://www.tsudakoma.co.jp/>

